

テーマ：地域住民の自治により、暮らしよい地域づくりがすすむまち「箕面」

| | |
|----------------------------|--|
| 目標(2020ゴールイメージ)(重視すべき目標指標) | <p>「新しいまちづくり協議会」として住民が主体となって、各地域の独自性も持ちながら、全市民に対し、きめ細かな公共サービスが行われている。特定の中間支援団体が支援し、多様な市民活動が運動して、市民との行政との協働が広範囲で行われている。</p> <p>市民の活動への自主的参加率50%UP 市役所への苦情、申し入れ件数の半減</p> |
| 現状(総括的認識) | <p>公共サービスは行政主導で行われ、住民が参加する場合も行政の枠組みで行われ、縦割り、慣習的に行われている面がある。そのため状況への適合が不足、遅れ気味で、画一的であることがある。地域全域的な視野に欠け、共通の目標が待てず、協力体制が希薄である。それぞれの組織運営も、限られた人材で、マンネリで活力に欠ける面がある。</p> |
| 今後の見通し・課題 | <p>「新しいまちづくり協議会」は全市を挙げての大きな仕組みとなるので、新しい方式の研究を2年程度住民と行政の協働で行い、方向性を見出し広範な合意を形成して、十分な準備し、強いリーダーシップで展開する。運用段階を考慮した市民組織もこの段階から組み込んで行く。大きな変革であり、全市的な取り組みで推進しなければならない。</p> |
| 方策・役割 | <p>「新しいまちづくり協議会」の基本的な提案としては、小学校校区をベースに10地区位に、市全域を区分し、地域の運営方針をそれぞれに決めて、全市民を対象により多くの市民が、主体性を持って参加して作成し、そののちに直接地域運営に参画する。それぞれの地域は、地域独自の方向と民主的な運営方法を有する。行政は全体として、それぞれの地区計画を充分組み込んで総合計画を立案する。</p> <p>従来との組織との重複する部分もあるが、相互に協力して行う。強力なこれに対応した特定の中間支援団体を形成して、行政と円滑にアクティブな関係を形成する。</p> |
| 市民 (住民、事業所) | <p>地域の活動に参画する、新しいタイプの市民が求められる。地域について実態を把握し、準備段階から積極的に関与することが重要である。地域において、従来の活動同士の連携について取組を始めること。運営方法は工夫して民主的ルールを確立する。先進地域の経験を活用する。</p> |
| 行政 | <p>準備段階では強い意欲で縦割りこだわらず総合的に、態勢を組み、そのうえで方向性を示して、十分な準備で市民参画を求める。従来の方策を超え、自治会、社会福祉協議会なども巻き込んで、市民参画を促す必要がある。この方式に適合した、組織変革を順次行うとともに、予算処置も適切に行う。</p> |
| 協働 | <p>すべての公共サービスを、実施主体を「行政」「協働」「住民」に大きく分類することで、この仕組みを従来の活動とも運動させて行う。従来 行政が主体で執行した事業であり、意識を相互に変化させて、取り組むことが求められる。</p> <p>テーマ別の市民活動とも協働することで、専門性のある市民により充実した活動となる。</p> |
| 条件整備(必要条件) | <p>準備から意欲的な市民が、広範囲に多く集まる手法により推進すること。</p> <p>行政が強い意欲を持って取り組む。議会も理解をし、積極的な関与が必要である。</p> <p>従来から活動している、自治会、社会福祉協議会などの団体からも、参画を求めて市民公益活動がまちの公共を発展させる、議論を行うことが必要である。</p> |
| 効果(期待と脅威)等 | <p>きめ細やかな、新しい地区運営が行われる。また行政と市民一人と会関係でなく、地域として行政に関与することで、適切で効率的な関係となる。行政も市民全体の意思を把握でき、適切な行政運営ができる。</p> <p>従来方式と重複する部分があり、混乱・摩擦を発生させる可能性がある。</p> |

地域情報のネットワーク化・システム化

テーマ（都市将来像） 「まちの情報ネット」の進化したまち 箕面

| | |
|--|---|
| <p>目標 (2020 のイメージ) (重視すべき目標指標)</p> | <p>「暮らしと協働のまちづくり」を支える地域情報共有社会の構築</p> <p>情報デバイド率、情報発信参加率・受信率、</p> |
| <p>現状（総括的認識）</p> | <p>【情報一般】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政（国・府・市）や各種団体の発信する電子情報は膨大なものが有り、情報がストックされている場所や有用(必要)な情報を取捨選択することを含め、欲しい情報にアクセスすることが困難な状況にある。 <p>【地域情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 限定的な内部情報の伝達を除き、アナログのチラシはもとよりIT情報に出会うのも偶然性による処が多い。 マスメディアとしてのコミュニティ放送（タッキー816）は、媒体として制約が大きく、聴取者が限定的で機能が十分に発揮できていない。（聴取率 5.7%） コミュニティ放送受信エリアの拡大（難聴エリアの解消） 情報発信・受信に対する格差が有る。（情報デバイド） |
| <p>今後の見通し・課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> 情報コンテンツの多様化に対応するためには、一方向性の一極型・限定情報の発信からインターネットに象徴される 双方向性の多極型(個人化)で多様な情報伝達が増え、さらにオンデマンド型伝達がさらに進展する。 (新聞や電話、放送からメール、WWWによる通信へ) 発信される情報に確実にアクセスできる(してもらおう)システムが重要になる。 行政情報等の発信は IT化により文字・映像(動画)情報が増大する。 携帯空白エリアの解消。 情報デバイドの存在。 |
| <p>方策・役割 市民（住民・事業所）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 情報デバイドの解消 コミセンや公共施設などに簡易端末の設置。 生活情報、文化情報、自然情報等の発信 通信と放送の一体化。コミュニティ放送の特性を活用した特定の情報発信とオンデマンドによる一般情報発信の使い分け。(Ex. 限定情報 = コース、音楽、...) 情報ネットを使った有料情報の提供(社会起業、CB) テレワークシステムの活用による NPO 等の運営マネージメント支援 |
| <p>行政</p> | <ul style="list-style-type: none"> 行政情報の公開、共有(発信)の推進 地域経営に資するデータベースの整備と利用に対する開放(部分有償も可) |
| <p>協働</p> | <ul style="list-style-type: none"> 遠隔地医療システムのような仕組みによる医療情報などの提供や子育て支援等の各種相談、交流、多様な学習システムの整備。 電子情報ネットワークによる文化財等のアーカイブ機能とバーチャル美術館、博物館機能の整備 大学図書館等とのネットワーク接続(オンライン化) 情報活用開発と支援事業 |
| <p>条件整備(必要条件)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域版ポータルサイトやクリアリングハウスの整備 高速情報通信ネットワークの整備・普及(通信事業者) 匿名性の増大に対する人権・プライバシー保護対策。(ハードとソフト) |
| <p>効果(期待と脅威)等</p> | <p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> 匿名性の増大に対する人権・プライバシー侵害。 情報操作によるコントロール <p>【期待】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会に対する適切な判断情報が容易に入手できることによる参加・参画機会の増大。 IT活用による意向把握とタイムリーな施策展開が可能になる。 情報の共有による地域・コミュニティの一体化 情報共有による NPO 等の活性化 多極型情報発信によるコンテンツのバリエーションの多様化、競争原理の導入によるスキルの向上、洗練、粗悪情報の自然淘汰等 情報ネットを使った有料情報の提供(社会起業、CB) |

オンデマンド (yahoo IT辞典より)

ユーザの要求があった時にサービスを提供する方式。[WWW](#)やメールをはじめとする[インターネット](#)上のデータ配信は、ほとんどがオンデマンドで行われている。これに対し、例えばテレビ放送は、いつどの番組を流すかは視聴者の意向や要求とは関係なく決められるため、オンデマンドとは言えない。1990年代中頃に、ケーブルテレビ網や[光ファイバー](#)網に[コンピュータ](#)システムを組み合わせ、個々のユーザの要求に合わせて、見たいときに見たい映画を放送する「ビデオオンデマンド」([VOD](#): Video On Demand)システムが注目され、「オンデマンド」という言葉も広まった。その後、インターネットの普及・発展に伴い、旧来のテレビなどの「お仕着せ」の[メディア](#)に対する優位点として、インターネット上のサービスのオンデマンド性がもてはやされ、一つのキーワードとなっている。また、コンピュータや周辺機器の充実に伴い、読者の要求ごとに書籍を印刷・販売する「オンデマンド出版」など、インターネットとは直接関係ない分野でも、新たな形態のサービスを考える上での重要なファクターとして台頭しつつある。

デジタルデバインド (digital divide) (yahoo IT辞典より)

[パソコン](#)や[インターネット](#)などの情報技術([IT](#))を使いこなせる者と使いこなせない者の間に生じる、待遇や貧富、機会の格差。個人間の格差の他に、国家間、地域間の格差を指す場合もある。若者や高学歴者、高所得者などが情報技術を活用してますます高収入や雇用を手にする一方、[コンピュータ](#)を使いこなせない高齢者や貧困のため情報機器を入手できない人々は、より一層困難な状況に追い込まれる。いわば、情報技術が社会的な格差を拡大、固定化する現象がデジタルデバインドである。また、先進工業国が情報技術によりますますの発展をとげる一方で、アフリカなどの途上国が資金難や人材不足、インフラの未整備などで情報技術を活用できず「置き去り」にされ、経済格差が拡大するのは、国家間、地域間のデジタルデバインドと言える。デジタルデバインドは、もともと貧富や機会の差が激しかったアメリカで問題となった現象で、2000年夏の沖縄サミットでは議題として取り上げられるなど、地球規模の新たな問題として注目されている。

クリアリングハウスとは？ (GIS ホームページより)

英語で "clearinghouse" と書かれ、辞書には「手形交換所」、「情報センター、情報交換機関」と記されています。JIS X 0701「ドキュメンテーション用語(基本概念)」には、「資料及びデータを収集し、保存し、報知し、利用できるようにする機関。このときの資料及びデータは、利用者を他の情報源に導くものであることもあるし、完結済み、進行中又は計画中の研究・調査研究であることもある。」と定義されています。地理情報システム(GIS)の分野では、通信ネットワークを活用した地理的情報の流通機構全体を指すことばとして示した意味で使われています。

アーカイブ (archive) とは、日本では一般的に **書庫** と訳されることが多いが、元来は公記録保管所、公文書、または公文書の保管所、履歴などを意味し、記録を保管しておく場所である。[公文書館](#)を参照のこと。

保存記録としてのアーカイブ

アーカイブの複数形としてアーカイブズがあり、文書保管を目的とした施設や仕組みを指す。なお、過去に放送された番組や関係資料の所蔵・閲覧を目的とした映像拠点として **2003年**に **埼玉県川口市**にオープンした [NHKアーカイブス](#)の「アーカイブス」は、「アーカイブズ」では末尾に **濁音**が続き発音しにくいために、[NHK](#)によってつくられた造語である。インターネットで公開されている情報を [クローラ](#)を用いて収集・保管する団体として [インターネット・アーカイブ](#)がある。保存した [ウェブページ](#)は履歴と共に一般に公開されており、無料で利用できる。サイトが消滅していても、保存時点の状態を閲覧できる場合もある。

[国立国語研究所](#)による「[外来語](#)」[言い換え提案](#)では、**アーカイブ**の言い換え語として「保存記録」や「記録保存館」が提案されている。

テーマ(都市将来像)

企業(団体)・学校が地域社会に広く参加するまち(追加提案テーマ)

| | |
|---|---------------|
| 目標 (2020ゴールイメージ) (重視すべき目標指標) | |
| 現状(総括的認識) | (分科会 新規検討 6月) |
| 今後の見通し・課題 | |
| 方策・役割 市民 (住民・事業所) 行政 協働 | |
| 条件整備(必要条件) | |
| 効果(期待と脅威)等 | |

その他 分科会報告事項

「市民主体のまちづくり」分科会

意見交流会でのご意見の検討状況の報告
意見交流会資料をもとにした多様な意見収集の状況 → 特になし

自治会組織化率の質問と地域住民組織機能が大切との意見が主な内容であり
特別に、アクションする必要が無かった。

地域特性をふまえた地域別課題と取り組み方向の検討

具体的な地域別課題の抽出と取組みが、行政・市民の間で円滑にできる社会のしくみが、今後の方向性であり、当分科会の主要テーマのひとつとして検討。

- ・ 行政が捉える地域別課題は、各部の地域ごとの認識を総合化していくしくみ、手法がいる。
- ・ 市民が捉える地域別課題は、各地域住民が主体となり民主的に抽出し、計画的に協働し問題解決をしていくしくみが必要。
- ・ そのため、地域での住民組織のあり方や行政経営と連動できるシステムづくりなど市民主体のまちづくりの観点から、研究・導入・定着していくことを検討。
- ・ 一環として宝塚市の事例をヒアリングに行った。